第３回千代田区まちづくりプラットフォームのあり方検討会
議事要旨

日時	令和５年３月 15 日（水）16 時～18 時 30 分
会場	区役所８階　第１・第２委員会室
出席	16 名（１名欠席）
議題	千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について （１）第２回検討会での意見対応について （２）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方素案（案）について （３）千代田区まちづくりプラットフォームの実証実験方針（案）について

議事要旨

- 開会

資料説明（事務局より）
（１）第２回検討会での意見対応について
（２）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方素案（案）について

- 資料１に基づき、第２回検討会での委員指摘を受けての対応等が説明された。
- 資料２に基づき、千代田区における合意形成のあり方、千代田区まちづくりプラットフォームの全体像、機能等が説明された。

意見概要
（１）第２回検討会での意見対応について
（２）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方素案（案）について

- 第２章で、合意形成で得られるものとして５つあるが、１から４は合意形成のプロセスを通じて得られるものであり、合意に至っても至らなくても得られる。５は合意形成のゴールの一つであり、ほかにも様々なゴールがあると考える。
- １から４は合意形成のプロセスにおいて副次的に得られる効果という印象を受けた。住民は日常生活において合意形成をしたいと思う機会は多くない。合意形成が本当に必要だと感じているのは行政側である。住民は、住環境を良くしたい、緑を増やしたいといった要望を持っており、それらを実現することが合意形成の意義だと感じる。ただ、それらに向けては一定の法律やルールを守ったり、意向を調整したりすることが必要なので、要望に直結はしないが、実現のために合意形成が必要になってくるということを説明する必要がある。合意形成があるからこれが得られるということではなく、なぜ合意形成が必要なのか、実現したいことのためには合意形成が必要だという説明が前提として必要であると考える。
- 文中に「まちづくり」という表現が繰り返し出てきているが、その言葉だけではあいまいな印象を持つ。まちづくりの一言の中において、ルールの策定もあれば、道路や公園などの具体的なハード面での場づくりもあれば、ハードの中での神輿を担ぐなどのイベントのようなソフトまで、「まちづくり」の一言の中に幅広い意味が含まれる。ここで語るまちづくりがどの領域を指しているのか、読み手にとっても具体的なイメージを抱けるよう、もう一段深いレベルでまちづくりについて表

現・記載をできるとよいだろう。また、1章において、まちづくりにおいて現在抱える課題を記載している中で、課題解決としてプラットフォームを出しているが、現在抱える課題の背景としての現状を掘り下げたダイアグラム（例として、これまでまちづくりに関与する行政と住民や事業者の関係性を示すもの）、プラットフォームを介すことで新たな関係性を示すダイアグラムを比較して示せると良いのではないか。文章で書かれている内容について、図解をする等してもう少し構造化した見せ方をできると、よりわかりやすくなると感じた。

- ステークホルダーの人々が今までどのようにまちづくりに関わってきたか、具体的に示す例・写真等を入れると読み手にとってもイメージが湧きやすくなり、良いのではないか。
- １章において、わかりやすいイントロダクションとしてまちづくりのイメージを想起させているが、2章の書き方により分かりにくくなっていると考える。
- １ページを見ると、まちづくりプラットフォームのサポート対象が協議会のみに見えるが、一般の人々が何らかのまちづくりに関わることは想定していないのか。まちづくりに様々な段階がある中で、プラットフォームがどう関わるかが重要となる。何らかの協議会があるということは、問題等がすでに発生していることを前提にしているように見える。
- 一般の人々からは意見を聞くだけなのか。第4章に「みんなで取り組む」とあるとおり、住民もまちづくりにアクティブに参画して、意見も聞くという形であれば、それを表現するダイアグラム等に更新する形がよいと考える。
- 15ページ（３）に、ツールの提供とある。例えばまちづくりプラットフォームが decidim のようなツールをどう採用するのか、外部の意見を協議会の話し合いにフィードバックしていくことは考えられる。そのほか世論調査のようなツール等をうまく使いながら補完できないか、といった意味でツールの提供と言っていると考えているが、もう少し整理して表現する必要がある。
- データベースやツールで、協議会に入ってない人たちの声を集めると、協議会の立ち上げまでが非常に大変になるので、そこの支援が必要だと考える。
- まちづくりプラットフォームがまちづくり協議会等のどの段階から支援するのが良いのか、既存の協議会全てに関わっていくのが良いのか、協議会内部で既に結論がまとまっているところは関わらないのか、それとも合意形成の状況に関わらず全て関わるのかなど、まちづくりプラットフォームのまちづくり協議会等への関わり方についてご意見をいただきたい。
- まちづくりプラットフォームは協議会等を応援する立場だと考える。まちづくり協議会等の活動の課題と必要な外部リソースを明確にすることが、まちづくりプラットフォームの機能について考えるにあたって必要となる。まちづくりプラットフォームは、もめているところに行って解決するというより、もめごとを予防する意味合いが強いと考える。そのためには協議会のメンバーや運営体制が重要であり、もう少し協議会の部分をふくらませないとまちづくりプラットフォームの機能の整理ができないと考える。
- 地域コミュニティをしっかり作ることが合意形成には重要ということだと考える。まちづくりコミュニケーターが地域の情報や課題を詳しく把握し、何が必要かを住民にしっかり伝えて共有できるように育成することが大事だと考える。まちづくり協議会は実際に機能しているのか。うまくいっている協議会があればその検証も必要ではないか。
- 協議会や検討会という言葉だけではなく、組織のイメージをつかめるようにうまくいっている協議会の事例を紹介いただけると良い。
- １ページの図において、千代田区の全ての地域に関わる問題はどこに入るのか。7ページの位置づ

けの図に千代田区都市計画マスタープランが大前提としてあるので、区の大きな計画に関することのみ、まちづくりプラットフォームが機能するように見えてしまう。区に住んでいると、何か問題があると町会に相談したり区議に情報を求めたりする。そのような小さい意見の食い違いはどこに含まれるのかが見えない。

- ９ページの図の地域の情報の共有や課題の設定と、７ページの都市計画マスタープランが結びつかない。
- ７ページの図は、千代田区の行政上の位置づけであり、枠組みを示す図であると捉えてもらったほうが良い。
- 協議会における合意形成には様々なパターンがある。外圧がかかって止まってしまっているようなものは、まちづくりプラットフォームで解決できるかは疑問に感じる。協議会の中に賛成・反対の両方が存在し、何か支援があればどうにかできたかもしれないようなケースであれば、まちづくりプラットフォームが有効に機能するかもしれない。このような具体的な事例をイメージして議論を進めると、より良い素案ができるのではないか。
- まちづくりプラットフォームは何らかの問題が起きているところを対象にするのか、それ以外も対象にするのか、それによって検討の幅が大きく変わるので、明確にして委員の共通認識にする必要がある。
- まちづくりプラットフォームには裁判所のような役割はできないと考える。こういう工夫をすれば合意形成がうまくいったのではないかという反省のもとで検討しているのだと考える。頑張れば未然に防げたかもしれないような事案を起こさせないように支援することを、まちづくりプラットフォームの機能として備えるべきと考える。
- 協議会のメンバーや議論の進め方は、まちづくりプラットフォームの支援の対象になるべきだと考える。
- まちづくりプラットフォームが協議会に近づいている図と離れている図があるなど、まちづくりプラットフォームの根底にある姿勢として、現場の議論と距離を置こうとしている印象を受ける。また、まちづくりプラットフォームの概念が１ページにおいて十分に示されていないと考える。１ページの図では、まちづくりプラットフォームが土台のようになってそこから矢印が出ているが、一方通行に支えて距離を置いているように見える。まちづくりプラットフォームが組織のみを指すのであれば組織を作れば良いが、あり方は 13 ページにあるような組織だけでなく、適切な情報を適切なタイミングで流したり支援したりと、アジャイルな動き方をする。一定の距離をおいてキャッチボールするようなイメージで捉えるのか、矢印まで含めた範囲もプラットフォームとするのか、その点をはっきりさせる必要がある。
- 言葉の使い方が不十分なところがある。８ページに「まちづくりの合意形成」とあるが、まちづくりは様々なものがあり、何を指しているかが分からない。千代田区のまちづくりには、再開発等のハード系の大規模なものから地域のお祭りまで、幅広いものがある。「まちづくり」とただ一言で済ませず、千代田区の中でどのようなケースがあるか提示し、その総体が「まちづくり」であるということをしっかり示す必要があると考える。この冊子を活用してもらうには区民がまちづくりのイメージを想起できるような資料やページなどを作ったほうが良いと考える。
- 合意形成という言葉がしっかり説明できていないため、一般論として合意形成の定義を提示したほうが良いと考える。その上で、合意形成のプロセスから得られるものを２章で提示したほうが良い。全体の構成は良いと思うが、読み手の立場に立って表現の仕方等を工夫していただきたい。目次構

成や全体の構造についてはご指摘いただいていないので、表現や説明などを丁寧にやっていただけると良い。８ページの１～３はプロセスを通じて一人ひとりの心の中に生まれるものであり、４・５は外部に対してアウトプットされるものである。それを踏まえたうえで合意形成のプロセスで得られるものとしたほうが良い。

- 千代田区を更地から作るわけではないため、すでに様々なトラブルやうまくいっていない部分がある。そこに今回のまちづくりプラットフォームが介入していく。そのタイミングが１から入るところと５から行くもの、マイナス１０くらいのものがある。それらが全て一緒くたになっているように見えるのかもしれない。まちづくりプラットフォームが介入するタイミングもある程度想定して、あり方の素案を作ったほうが良いと考える。
- 協議会がまだないところに対しても支援するべきか、あり方でカバーするのかしないのかをはっきりするべきである。
- 協議会を作るところが重要であり、そこをサポートすべきだと考える。一方で、まちづくりプラットフォームの目的から考えてもっと絞り込んだ方が良いということであれば、それもあり得ると思うので、皆さんのイメージや意見を聞きたい。
- まちづくりプラットフォームは、協議会のメンバーや会議の進め方等、協議会のあり方にも介入すると考える。介入するタイミングは、協議会ができる前かできた後かという点についてはあまり差がないと感じる。
- １ページでは、まちづくりプラットフォームという組織を作るだけではないという点を踏まえて、協議会に働きかけていくこともまちづくりプラットフォームの役割に含まれることを示せるようにうまく図を修正してもらえると良い。協議会の作り方や既存の組織の改善にも働きかけていくのかという点についても確認して、そうであれば１ページに書き込んでいく。
- ２ページでは、まちづくりの定義を整理して、その中にステークホルダーがいることを説明できると良い。その上で８ページでは、合意形成のプロセスから得られるものを、参加者にインプットされるものと、アウトプットされるものの２つに分けていただく。９ページからの図について、軸の取り方が、９ページは上から下、13 ページは左から右、となっているため、時間軸をそろえた方が良い。11 ページの図も時間軸で捉えてもらったほうが良い。それぞれの図の役割を考えて整理してほしい。13 ページの図の螺旋もいくつかのプロセスに分かれると思うので、それぞれを指す矢印が何を示すか補足すると良い。そうすると３章のまちづくりプラットフォームのあり方がもう少し具体的に見えてくると考える。14 ページからはまちづくりプラットフォームをツールとして捉えた場合の機能の説明になるので、13 ページの矢印の中に反映される必要がある。
- 第３章の 12 ページに「新規立ち上げ」とあるので、協議会の新規立ち上げから介入することを想定していると解釈する。また、今回の議論から、すでにある協議会の再検討も機能に含まれると感じた。新規立ち上げから介入するとなったとき、３章や４章の細かいところまで見ないとまちづくりプラットフォームが様々な形で理解されてしまうという点が今回の議論の中身であると考える。文章では、最初にまちづくりを飛ばしてまちづくりプラットフォームの説明から入っているが、千代田区において想定されるまちづくりについて述べても良いのではないか。
- 地域の実情に合わせて支援とあるが、その想定は３章に書かれているため、全体像を概括できる図を最初に示せるとよい。地域を超えたテーマは今回対象としないと対応方針にあったので、各地域の課題も図に書き込めると良い。地域の実情に合わせた支援という一言だけでなく、ある程度具体的に書けると、１ページの図で冊子の全体像がある程度分かる。ステークホルダーまで入れるとご

ちゃごちゃしすぎるので、まずは１章から３章までの全体が分かるようにすることが重要ではないか。

- 第三者性という説明があったが、対立が生じていないときは、第三者性にこだわらず、支援や助言をして一生懸命応援する立場でよいと考える。しかし、対立が起きたときには、プラットフォームは何者なのかと言われてしまう。平和な時期はしっかり応援するが、対立したときに何者なんだとなるのは大変だと考える。
- まちづくりプラットフォームは、活動を進めていくためのリソースを持っても良いのではないか。専門家の集団だけでなく、まちづくりに協力してくれる人たちも入って良いと考える。
- 行政が図に含まれていないが、行政が関わることも書いて良いのではないか。まちづくりサポーターズには、専門家以外にもまちづくりを一緒に応援する人がいても良いと考える。
- ３章においては非常に重要な機能について触れている。街づくりの合意形成に必要な要件として、11 ページに意見の整理という表現があるが、単なる整理だけなのか、あるいは調整をするのかによって、機能に大きく影響する。プラットフォームの機能を明確にする必要がある。
- 区長や議会、都市計画審議会などの意思決定をする機関に向けて、情報を整理して根拠として提供することに意味があると考える。合意形成をサポートすることもあり得るが、目標としては意思決定の根拠をまとめていくことも重要な機能だと考える。
- 意見を整理するということは、集約するという意味を多分に含むので、そこが伝わるようにする必要がある。
- 議論の持っていき方で合意できる話があったり、意思決定の場がしっかりしていないことで間違った方向に行ってしまうものがあると考える。
- 意思決定の場は何らかの形で必ずある。その意思決定の場とまちづくりプラットフォームがどういう関係にあるのかという点を、あり方素案において整理する必要がある。
- 意思決定と合意形成の使い分けをしっかりするべきだと考える。
- 意思決定には、様々な正しい情報が必要となるため、まちづくりプラットフォームにおいて情報の整理をする、という関係性の整理が必要である。
- 以前も話した通り、海外の ICT プラットフォーム（台湾 join 等）は、合意形成だけではなく（一定のルールを設定し、幅広い国民が意見を提出し、一定の賛同者数を集めたものは行政側が検討・回答し、行政所管課の対応内容を含めて見える化したもの）各プレーヤーの意思決定においても参照される、信頼性の高い行政側プラットフォームとして存在している。議論している内容が意思決定にもどのようにつながるのか・関連するものであるのかを見える形にすることでまちづくりプラットフォームの機能が大きく変わるのではないか。また、一区民として感じることとして、区が今回の様に、合意形成のあり方についてこのような検討会を開き、参加者は熱心にあるべき姿を議論され、区側も、区民を分断しない様な方策について一生懸命考えているものの、昨今のメディアニュース上では区は「一方的」であるといった批判を良く見るため、色々なことが現状つながっていない課題を強く感じる。まちづくりプラットフォームで、今日提示頂いた過去の議論に係る資料を含めて、疑義が生じている事態の経緯等を俯瞰的に誰もが見ることができるようにすると、一部の事象だけ切り取られた批判だけで終わるのでなく、建設的な議論にもつながるのではないか。意思決定や合意形成プロセスの全体像を共有するとともに、区民と行政が双方向的にコミュニケーションを図る場をつくり、各議論と意思決定プロセスの関係を把握できること等が合意形成を促進する要素として重要ではないか。

- 「意思決定」という言葉のイメージも共有されていないため、慎重な議論が必要である。意思決定は制度や法律に基づいて行われ、誰が行うかも決まっている。合意形成のプロセスは、意思決定に影響を与えたり材料を提供したりするものであり、合意形成が区の意思決定になるわけではないという点を確認しておく必要がある。
- 合意形成と意思決定は全く異なり、都市計画の意思決定は千代田区全体の意思として決定される。しかしながら、できるだけ多くの人々の意見をふまえて合意を図り、意思決定に導こうというのが、このまちづくりプラットフォームである。
- 一つの方法として、7ページの位置づけのところに、意思決定と合意形成の整理を加えてはどうか。また、意思決定には都市計画審議会等のオフィシャルなプロセスがあり、地域のお祭り等についてはそれぞれの自治体に意思決定のプロセスが定まっている。その中に合意形成をどのように組み込むか、ということが問題である。ラグビーで例えると、状況判断はプレイヤー全員が行うが、意思決定はチーム内の特定の人間のみが行っている。
- まちづくりプラットフォームで合意形成を支援して、議会に通し、さらに都市計画審議会を通して最終的に区が意思決定を行う、という流れだとすると、まちづくりプラットフォームは単に話をややこしくしているだけではないか。
- まちづくりプラットフォームが意思決定とどのような関係にあるかを整理する必要があると考える。様々な人の意見を踏まえて対立を整理し、混乱しているものを明確化した情報を法律上定められた意思決定の場に提供することがまちづくりプラットフォームの一つの役割ではないか。また、役割が明確化していないと実装の際にどのような立場で入っていいかわからない上に、入ったとしても混乱を招く必要がある。
- 対立がないという前提で話すと、まちづくりプラットフォームは協議会に議論の場づくりのアドバイスや技術的支援を行う存在であり、何か意見を持つ立場ではないと認識している。
- 意思決定のプロセスは法律や条例で定められており、変わることはない。そのプロセスに、まちづくりプラットフォームという合意形成のプロセスや住民の声がどのように反映されるか、という話だと考える。
- 地域の協議会においてまちづくりのルールなどを議論し、うまくいかなかった場合まちづくりプラットフォームに支援を求めて、協議会の中で整理がされた段階で区の意思決定に進むという流れだと考える。協議会の中で賛否がわかれてもめた場合、まちづくりプラットフォームが助言等をした方がいいのかどうかは、協議会によって状況が異なってくる。最終的な意思決定は区が行うという流れを整理して 11 ページや 7 ページなど、どこかに記載した方が良い。
- 14 ページの機能のところに、シンクタンク機能のようなものがあるということか。合意形成に関するノウハウや知見を蓄積して次に活かすのか。
- 経験値をきちんと記録に残し、後発の類似事例に活かせるように共有できるようにする必要がある。そのため、「情報」と「人」が機能に含まれると考える。
- 以前、地区の協議会に参加して感じたことであるが、実は前から検討されていた事象であっても、その協議会の参加者からすると初耳のことと認識されてしまい、検討する時間も不十分である状態で意思決定されるものと捉えられ、「一方的」という批判が生じることもあった。このようなプロセスにならないよう、このまちづくりプラットフォームでプロセスや時間軸を共有して区民等の対話や参画を促すことが重要ではないか。本資料の中でどこまで細かく記載するかは要検討であるが、まちづくりの構成要素として制度やハード（施設分類）、ソフト（イベント分類）ごとにある程度の

所要期間やプロセス等の全体像を共有するとともに、まちづくりプラットフォームが積極的にそれらのプロセスがスムーズにいくように調整・発信する役割が期待されるのではないか。

- 細かく書くとキリがないため、プロセスを支援することを強調して、具体的な機能はガイドラインのようなものできちんと作る必要があると考える。
- 町会のメンバーに、まちづくりプラットフォームや協議会についてわかりやすく説明できるようなツールがあると良い。せっかくこのような活発な議論が行われているため、できる限り伝えていきたい。
- 現在もマンションが増えており、今までの関わり方では町会がやっていけないため、マンション住民との関わり方を悩んでいる。新住民も巻き込んだ新たな地域まちづくりをしていけるようになるとよい。
- 新住民を巻き込んだ組織の作り方が重要である。組織の立ち上げからまちづくりプラットフォームが支援することを検討しても良いのではないか。
- 資料２の構造は維持し、さらに肉付けをすることで素案にするのが良いと考える。
- なぜこの検討会を開いているのか、という点から実はよくわかっていない。まちづくりプラットフォームを作ることが既に決まっており、それができると何かが前に進むのか、あった方がいいのか、といったことがわからないまま細目を検討している。目的があって検討するのが会議であるため、どこにたどり着きたいのかイメージが定まっていないまま検討する会議は無駄だと考える。
- もめごとを起こさないための方法について、行政で考えても不十分であるためいろいろな意見が聞きたいということであれば、何らかの話をできると思うが、まちづくりプラットフォームで解決する道について検討しよう、という話であれば何も言えない状態である。今は回り道を繰り返していてわからなくなっていると感じる。
- 資料にもとづいて議論してきたが、その前段で趣旨を統一させた方が良い。
- 合意形成によってどうなるのかという根本的なところに説得力がないと、もめごとが起きた際にまちづくりプラットフォームが何を行うのか。
- このまちづくりプラットフォームを作ることによってどういうことがあるのかを打ち出す必要がある。検討を重ねるにつれて方法論に目が行きがちであるため、一度引き戻した方が良い。
- 今後まちづくりプラットフォームができることによって、より双方向的なプロセスに実態としても転換できるのであれば意義深いと思うが、抽象論の議論だけではイメージを掴みづらいため、具体的な場所を想定して、ICT プラットフォーム等のプロトタイプを用いて実証するのが良いのではないか。
- まちづくりプラットフォームがツールとして存在するのであればそのように感じられるが、今のまちづくりプラットフォームは、誰がやるか、どのようなメディアを使うか、どのような話し合いをするか、といったことがないままに概念として存在しているため、わからなくなっている。形になるものがない概念を方法論的につなぎ合わせているだけであるため、議論を追い切れなかった。
- 地域の住民が望んでいることがまちづくりプラットフォームの具体的な機能につながっていくと良い。
- 概念の世界で方法論を議論することの限界がある。方法論の議論であれば、もう少し具体的なものを共有し、まちづくりプラットフォームを作ることでどのような良いことが生まれるか、ということにまた立ち返っていく方が良い。

資料説明（事務局より）
（３）千代田区まちづくりプラットフォームの実証実験実施方針（案）について

- 資料４、５に基づき、千代田区まちづくりプラットフォームの実証実験方針と今後のスケジュール等が説明された。

意見概要
（３）千代田区まちづくりプラットフォームの実証実験実施方針（案）について

- 実験実施では、来年度から具体的に地区を想定して取組みを行い、まちづくりプラットフォームができることでどのような効果があるか確認するものだと考える。
- 実証実験の実施を楽しみにしている。合意形成が目的ではないという話が新鮮に感じた。

【第３回検討会における議論の整理】

- 今日の議論を踏まえて、資料に具体的なケース等を取り入れて、まちづくりプラットフォームを作ることによってどう良いことがあるかを具体的に確認し、それを再度概念に反映させる、というプロセスを取っていただきたい。方法については、有識者の意見を聞いてまとめる。
- 実証実験に関しては、まちづくりプラットフォームを作ることによる良い効果や具体的な活動を確認することを目的とする。

閉会